

ありmama便り

2014年
11月発行



子ども騒いでも親子楽しく

じっとしているのが苦手な子どもと、気兼ねなく映画を楽しみたい。そんな願いを持つ親に、藤枝市の映画館で開かれている貸し切りの上映会が好評だ。企画するのは、静岡県の特設支援学校に子どもが通う保護者6人で行く団体「ありのmama隊」。同じような上映会は10月下旬に岐阜県でも開かれた。メンバーは全国に支援の輪が広がるのを期待している。(神谷円香)



団体の代表、中野真理子さん(左)は自閉症の長男朝陽君(右)に通う。自身は映画好きだが、一緒に映画館に行くことはなかった。

わくわくしながらスクリーンを見つめる親子連れ。藤枝市前島の「藤枝シネ・プレーゴ」で

きたが、一緒に映画館に行くことはなかった。転機は今年五月。「親子で見える機会があれば」と、知人を通じて藤枝市の映画館「藤枝シネ・プレーゴ」興行会社の森岡功樹興行部長(左)に相談した。森岡さんは快諾し、六月中旬に八人で「アナと雪の女王」を観賞した。上映中も足元が見える明るさで出入りは自由に。待たせないよう予告編は流さない工夫も安心感を与えた。同じ映画館で一回り大きな百十五席の会場に変えた八月下旬の第一回、十月二十一日の第二回ともほぼ満席になった。中野さんは「子どもが騒いでも気にならず自分が楽しめた」という親の言葉が、企画への

ありのまま映画観賞

藤枝 貸し切り上映好評

中野さんは第一回で初挑戦後、朝陽君と通常の上映にも行ってみたい。静かに楽しむことができ「案外大丈夫かも」と自信になった。映画館に入る直前で「怖い」と尻込みする子どももいるが、「練習を重ね、出掛けられる場所を増やせたら」と願っている。

最高の褒め言葉だったと喜ぶ。上映会は平日の夕方、通常の上映に支障の無い枠で開き、入場料は障害者と付き添い者の割引料金と同じ一八〇〇円。すべての映画館が応じられるわけではなく、興行側が企画するのは難しい。「ニーズがあるなら」と応じた森岡さんは「こういう風にした」と言ってくれる方が対応できる」と話す。

中日新聞の記者さん

(神谷円香さん)が

10月31日(金)チャレンジド・プレーゴ Vol.3 『STAND BY ME ドラえもん』に来て下さいました。

この映画会にご協力いただいている藤枝シネ・プレーゴの森岡さんや「ばらばん」さん、参加して下さいました保護者の方や、ありmama隊員に取材して、出来あがった記事がこちらです。

←(11月5日朝刊に掲載)

(本物は縦25×横18cmくらいです)

(そして、カラー写真です)



(ありのmama隊のこれからの予定)

- 2014.11.23 (日) Bivi 藤枝 1Fにて スケート (40人限定)
- 2015.01.30 (金) チャレンジド・プレーゴ 「ベイマックス」
- 2015.03.23 (月) クッキング 会場：東海ガス クリッピープラザ (24人限定)
- 2015.05 チャレンジド・プレーゴ 「ドラえもん」
- 2015.08 " " 「アンパンマン」

